歴史と教育の町
さいか
まちあるき
マップ

撮影協力・松江地方気象台

雑賀町・公民館への交通アクセス

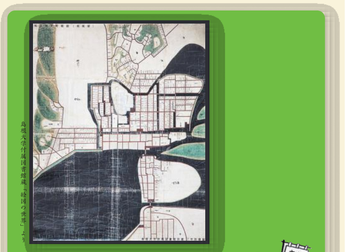
●ＪＲ松江駅から
路線バス表示４番から八雲・県合同庁舎市立病院行きに乗車、相生町で下車。
●県庁から
県合同庁舎行（松江駅経由）または八雲行乗車、相生町で下車。
＊雑賀公民館は相生町バス停より徒歩１～２分です。

「さいかまちあるき」問い合わせ先

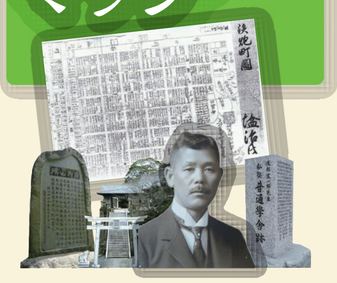
●雑賀公民館
松江市雑賀町 677
☎ 0852-23-8179
(9:00～17:00 / 土日休館)

＊まちあるき指導は平日であれば、雑賀公民館で行います。

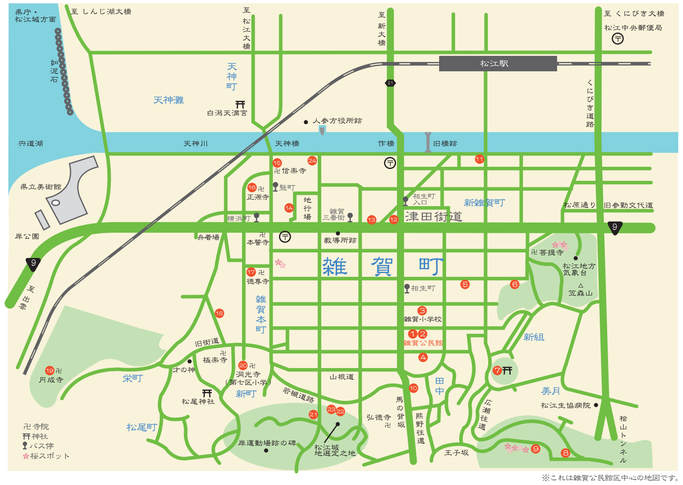
資料提供／松江先人記念館・雑賀教育資料館



歴史と教育の町
さいかまちあるきマップ



さいかまちあるきマップ



※これは雑賀公民館区中心の地図です。

1. 雑賀公民館
2. 博審学舎跡と案内板（はくしん）
3. 松江先人記念館・雑賀教育資料館
4. 澤野修輔生誕地・乾塾跡
5. 松本塾跡
6. 紫雲塾跡（しうん）
7. 売豆紀神社（めづき）
8. 松江開府の径之碑（かいふのみち）
9. 桧山配水池跡（ひのきやま）
10. 若槻禮次郎生誕地
11. 普通学舎跡
12. 共進学舎跡（きょうしん）
13. 松江裁判所跡
14. 岸清一生誕地
15. 信樂寺（しんぎょうじ）
16. 正源寺（しょうげんじ）
17. 徳専寺
18. 培塾跡（ばいじゅく）
19. 円成寺
20. 洞光寺
21. 床几山配水池跡
22. 床几山（しょうぎさん）
23. 森本文斎碑（ぶんさい）
24. 牛蒡積石垣（ごぼうづみいしがき）

「雑賀２丁目の２丁目」とは？
某酒の銘は、９寸幅の清田街道を基本として１丁目とします。２丁目は道路を１つ南下した筋を表しています。所名の筋は、雑賀本町通りを基本として１丁目と数えますので、道路を１つ東進して２丁目と数えます。

まちあるきめぐりの例

Ⓐ偉人賢人の町めぐり

岸清一
若槻禮次郎

雑賀公民館
↓
博審学舎跡
↓
松江先人記念館・雑賀教育資料館
↓
澤野修輔生誕地・乾塾跡
↓
若槻禮次郎生誕地
↓
床几山・碑林の丘
↓
岸清一生誕地

Ⓑ歴史の町めぐり

雑賀公民館
↓
売豆紀神社
↓
松江開府の径之碑
↓
桧山公園（仮称）
↓
床几山・碑林の丘
↓
円成寺

売豆紀坂史跡記念碑

Ⓒ教育の町めぐり

雑賀公民館
↓
博審学舎跡
↓
澤野修輔生誕地・乾塾跡
↓
洞光寺
↓
培塾跡
↓
徳専寺
↓
正源寺
↓
普通学舎跡

徳専寺「雲善」の碑

Ⓓ雑賀の土木工法めぐり

雑賀公民館
↓
５丁目の１丁目（基幹排水点）
↓
本郷町牛蒡積石垣
↓
街筋と屋敷ずれ
↓
旧参勤交代道（津田・松原街道）
↓
広瀬往還（売豆紀丁）

Ⓔ時間をかけて雑賀を歩くコース

床几山配水池跡地の公園から見た風景

雑賀公民館
↓
松江先人記念館・雑賀教育資料館
↓
売豆紀坂史跡記念碑
↓
床几山・碑林の丘
↓
床几山配水池跡
↓
洞光寺
↓
円成寺

堀尾吉晴公・忠氏公父子顕彰碑

Ⓐ～Ⓔの道順や所要時間は雑賀公民館でお伝えします。
(所要時間：およそ 90 ～ 120 分)

菩提寺（雑賀町）

本誓寺（竪町）

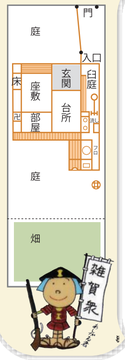
松尾神社（松尾町）

本誓寺や松尾神社のほか、春は菩提寺のしだれ桜も見どころです。

雑賀足軽屋敷模式図

●雑賀衆屋敷の配置例
(※緑線＝道路 / 水色線＝排水路)

●「雑賀足軽宅」見取図



培塾平面図

① 雑賀公民館

公民館は市民への公報活動や館独自の刊行事業を展開するなど、地区組織・グループ活動の案内・指導を情熱的に展開。その幅は広く、歴史学習・レクリエーション・音楽・華道・奉仕・見守りなどに惜しまない支援をしています。雑賀まちあるきガイドの受付も公民館で行っています。

※公民館で「まちあるきマップ」を配布します。

② 博審学舎跡と案内板

永田穂積が明治 18 年からこの場所で庶民教育の塾を開き、後にこの地方として初めての法律講座を開きました。このことは県の官吏養成の一助ともなり、多くの事務管理者を輩出したのです。武士の町の人であった永田は、雑賀の向学心に刺激を受けこの地に移り住んで高い精神で開塾しました。

③ 松江先人記念館・雑賀教育資料館

先人記念館には、若槻禮次郎・岸清一をはじめとする雑賀の７人の先人の業績や生き方が分かる資料が展示されています。教育資料館には、澤野修輔・渡部寛一郎など明治期の雑賀教育を中心的に推進した４人の教育者の業績を展示するとともに、江戸時代後期から明治・大正・昭和まで、１５０年以上におよぶ教育資料が展示されています。「歴史と教育の町」雑賀の足跡が残されています。ぜひ、ご来館ください。

※参観を希望される方は、雑賀公民館までお問合せください。(☎0852-23-8179)

④ 澤野修輔生誕地・乾塾跡

培塾を開いた澤野修輔はこの地で誕生しました。また、この地では修輔の兄、澤野革兵衛が乾塾という私塾を開いていました。革兵衛も向学心に富み、秀才で知られました。乾塾で革兵衛は読書、算術、英語等を教えました。また、明治１０年と１８年には雑賀小学校の教員として勤務しました。

⑤ 松本塾跡

松本宗四郎が嘉永６年この地に塾を開き、読書・習字・算術を教えました。明治７年雑賀東小学校、明治１０年女児小学校となり、明治１７年雑賀小学校に合併されるまで続きました。

⑥ 紫雲塾跡

高井忠次郎が嘉永２年この地に塾を開き読書・習字を教えました。１８年後の慶應３年に塾を終えました。現在の雑賀幼稚園の地は、孫の高井末彦氏から松江市に寄贈されたものです。また、高井末彦氏の寄付金をもとに松江市では高井奨学金が創設されました。

⑦ 売豆紀神社

出雲風土記にも記載されている由緒ある神社。主祭神は「下照比売命」で「大国主命」の三女。主祭神にちなみ人々は子授け・安産を祈願し、また病気平癒のご神徳を願っています。神社では毎年 11 月「亥子（いのこ）さん行事」が行われています。

⑧ 松江開府の径之碑

松江開府 400 年の記念碑として平成 22 年４月建立。広瀬の富田城から堀尾吉晴、忠氏父子、家臣・職人らが往来しました。この地点は、広瀬及び熊野往還が重なる地点です。これは、松江市や松江開府 400 年祭推進協議会、雑賀まちづくり推進協議会等の熱い希望で成就したものです。

⑨ 桧山配水池跡

桧山配水池の跡です。ここからは松江城が遠望できる景勝地です。江戸時代の三大銘花「一葉」「普賢像」「関山」の花が咲く桜の丘です。梅雨にはあじさいが咲き誇り美しい所です。

⑩ 若槻禮次郎生誕地

大正 15 年第 25 代内閣総理大臣。昭和４年ロンドンでの海軍軍縮会議の日本の首席全権を務め、昭和６年再び第 28 代内閣総理大臣となりました。後の評価では民主的政治家、国際的には平和愛好者と称えられ、県庁前庭には胸像が建ち、郷里の偉人として顕彰されています。

⑪ 普通学舎跡

渡部寛一郎は東京師範学校を卒業後郷里に帰り、明治 16 年私塾普通学舎を開きました。後に進取学館・松江義塾と合併して「私立中学修道館」と称し中等教育の発展に尽くしました。藩校の名が後の工業学校に引き継がれたのも藩校精神を若者に伝えたい一念でした。西隣は取壊される松江城を救った高城権八の住まいした旧家跡です。

⑫ 共進学舎跡

尾原総八は関流和算の流れを汲む算術家にして藩校修道館の助教を勤めました。明治６年雑賀小学校の開校のとき算術教師となり、その後、第２代・10 代目の校長となりました。他にも師範学校・松江中学の教師も務めました。明治１７年辞職し、松江中学受験生のためにこの共進学舎を開きました。雑賀教育を支えた賢人でした。

⑬ 松江裁判所跡

明治 11 年 10 月ここに松江裁判所が新築され新時代の裁判が行われました。これにより私塾博審学舎も開かれ、新法制下の町村役人への登竜門にもなったわけです。明治 23 年２月、この裁判所は母衣町の新庁舎に移転しました。(『山陰商工便覧』より)

⑭ 岸清一生誕地

わが国弁護士界の開拓者で国際弁護士。嘉納治五郎に継ぎ第２代日本体育協会会長として近代日本のスポーツ発展に貢献しました。郷里出身の学生や郷里の学校に多額の育英資金を寄附したことで、数多くの人材を育てました。県庁前には銅像が建ちこの除幕式には国際オリンピック委員会会長ブランデージ氏が参列。このことからも、岸の国際人（ＩＯＣ委員）としての人物の大きさが理解できます。

⑮ 信樂寺

信樂寺（しんぎょうじ）：堀尾吉晴の松江移城とともに、広瀬からこの地に移転した浄土宗の寺。境内には松江藩初代藩主松平直政が信仰したといわれる聖徳太子堂があり、毎年夏祭りで賑わいます。

⑯ 正源寺

正源寺（しょうげんじ）：堀尾吉晴の松江移城とともに、広瀬からこの地に移転した真宗東本願寺派の寺。明治８年雑賀小学分校堅町小学を開きました。かつては若槻家の墓所があり、寺の什物には荒川亀斎がデザインした釣鐘があります。

⑰ 徳専寺

徳専寺（とくせんじ）：堀尾吉晴の松江移城とともに、広瀬からこの地に移転した真宗東本願寺派の寺。明治７年雑賀西小学校として分校の重責を果し、本町筋の子弟で賑わったと言います。境内には、大名茶人松平不昧公に愛され重用された布志名の陶工「雲善」の碑があります。

⑱ 培塾跡

澤野修輔は江戸に出て昌平黌で幕末の日本と外国事情を学んだ後、安政２年帰郷し私塾培塾を開き、子弟の教育を行いました。また、藩校修道館の教師や初代雑賀小学校校長、松江中学、師範学校等の教師も勤めました。修輔は時代を見据えた人間教育を活発に展開しました。門弟からは、梅錦之丞・梅謙次郎・岡崎運兵衛・渡部寛一郎・若槻禮次郎・岸清一・尾原総八・久保田愛之丞等の人材が育ちました。

⑲ 円成寺

円成寺（えんじょうじ）：堀尾吉晴の松江移城とともに広瀬から外中原に移転し、さらに現在地に移転した臨済宗の寺。この寺は堀尾家３代の菩提所で、裏山には忠晴の霊廟があります。山上からの眺めは絶景で宍道湖八景のひとつ。毎年 11 月６日には堀尾家の法要が行われます。

⑳ 洞光寺

小泉八雲が愛した寺

洞光寺（とうこうじ）：堀尾吉晴の松江移城とともに、広瀬からこの地に移転した曹洞宗の寺。出雲一円に２４の末寺があります。明治６年学校教育が始まり、寺の庫裏を借りて松江で最初となる「第七区小学」（雑賀小学校）を開校し「教育の町雑賀」と呼ばれる原点となりました。一方、社会福祉施設の始まりとなる『山陰慈育家庭学院』発祥の地となりました。墓地には、澤野修輔、荒川亀斎などが眠っています。

㉑ 床几山配水池跡

大正７年、この地に配水池が作られ、松江市民に忌部ダムから取水した水の供給が始まりました。今は、整備され、公園になっています。配水池と門、計量室は登録有形文化財に指定されています。

敷地内は、花公園としても親しまれています。

㉒ 床几山

堀尾吉晴・忠氏父子による松江城地選定の地として記念碑が建てられています。また、松江の発展に尽くした先人である、澤野修輔・佐々木文蔚・雨森精翁の記念碑や山内曲川の句碑があります。太平洋戦争中までは、見上げるほどの若槻禮次郎の銅像が建っていました。

㉓ 森本文斎碑

文斎は幼くして森本鮮庵の養子になり、17 歳より 10 年間医学修行。明治 18 年、帰郷後雑賀町の現在地に開業。自費で「私立産婆養成所」を開設。後に「私立産婆看護婦養成所」と改め、助産師・看護師の地位向上と技術の発展に尽くした功績は高く評価されています。

㉔ 牛蒡積石垣

江戸時代に雑賀に足軽屋敷が造られることになりましたが、鉄砲を扱う集団の地としてはもとが湿地だったため家屋敷の下からの湿気がこもり不向きでした。そのため溝を整備し、屋敷下の水はけを良くして天神川に水を流す工夫をしました。この溝に「牛蒡積」(ごぼうづみ)と呼ばれた石垣が使われています。(この一部が２丁目から本郷町北側の天神川に接して残されています。)